

---

# えんぴつと赤とメガネ

神奈月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

えんぴつと赤とメガネ

### 【Nコード】

N8187S

### 【作者名】

神奈月

### 【あらすじ】

所属してるサークルで書いたものです。即興三題噺だったかな。お題はタイトルどおりです。それでは。

僕は今、非常に緊張している。別に美術の先生が苦手とか、下手な絵を見られるかも知れなくて恥ずかしいとか、そんな理由ではない。いや、実際にはそれもあるんだけど、そんなちやちやもんじやない。

僕はそつと、隣を盗み見る。そこにいるのは、名前も知らない、別のクラスの女の子。その子は僕が見ている事にも気付かず、課題として出されたまっ赤なリンゴをのデッサンを描いている。僕の顔も、あんなリンゴみたいになってるのかも。

うちの高校は、芸術科目を『音楽』『書道』『美術』から選ぶようになっていて、選んだ科目ごとに分かれて、複数のクラスが一緒の授業を受けるようになっていて。彼女に出逢ったのもまったくの偶然だった。

初めての授業で、先生から2Bのえんぴつを渡される。『先生をスケッチしなさい』だって。慣れないスケッチブックを片手に、不格好な絵をいくつも連ねていく。あ、変になった。えんぴつを消しゴムに持ち替え、不自然に突きでた線を消して行く。

カラカラカラ……。

「はい」

落ちたえんぴつを、拾ってくれたのだらう。ありがとうと言いつつ振り向くと、女の子がいた。ひなたに出た事がないんじゃないだろうか、まっ白い肌で、優しげなおっとりとした目をしてる。それに、ちよっとぶかっこうなメガネも、すごく可愛いな……。

カラカラカラ……。

僕は女の子が落としたえんぴつを拾って、

「落ちたよ」

って手渡す。

「ありがとう」

って言われて、ちよっと嬉しかった。でも、今日はコンタクトだ。次にあのメガネをかけてくるのは、いつなのかな。

だって、コンタクトより、あの時のメガネの方が、ずっと可愛かったんだから……。

(後書き)

まさか書き上がったら発表するとは思わなくて、公開処刑にあいま  
した。恥ずかしいですよ、恋愛ネタ読まれて感想いただくのは。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8187s/>

---

えんぴつと赤とメガネ

2011年10月7日21時48分発行